

日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

2024年1月 vol.3

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2023年12月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

食道穿孔・破裂	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年海外のガイドライン (Esophageal emergencies: WSES guidelines) や最近の知見に基づき改訂を行った。 ・特発性食道破裂は、その発生機序に関係した前駆症状としての嘔吐が見られるが、前駆症状がない例も知られている。日本食道学会の全国調査では、前駆症状のない例が17.3%に見られ、このグループでは誤診や診断・治療の遅れが起りやすく予後不良となる特徴を有している (Sohda M, et al. Esophagus. 2021 Jul;18(3):663-668.)。 ・内視鏡下のステント治療、吸引療法は、食道穿孔に対し、我が国では保険適応外であるが、海外ではその有用性や製品に関する報告が増えている。食道穿孔治療に特化した製品化 (EsoSPONGETM, MICRO-TECH Europe GmbH, Dusseldorf, Germany) が行われており、医源性穿孔に比べると、特発性破裂での成功率は劣るが、有用で実行可能性の高い治療となることが期待される。両者を組み合わせた吸引ステント (VACStent, MICRO-TECH Europe GmbH, Dusseldorf, Germany) の有用性に関する報告が行われた (Luttikhof J, et al. Endoscopy. 2023 Sep;55(9):859-864., Pattynama LMD, et al. Front Surg. 2023 Feb 22;10:1145984.)。
1型糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ・『緩徐進行1型糖尿病の診断基準 (2023)』が下記の通り変更された (島田朗ほか：糖尿病66 (7) : 587~591, 2023)。 ・インスリン依存状態に進行した段階 (空腹時血清Cペプチド<0.6 ng/mL) で、緩徐進行1型糖尿病と診断する形とし、従来のslowly progressive insulin-dependent diabetes mellitus (SPIDDM) の同義語として「緩徐進行1型糖尿病 (definite)」と呼称することとした。 ・インスリン非依存状態にある場合は、緩徐進行1型糖尿病の疑いという意味で「緩徐進行1型糖尿病 (probable)」と呼称することとした。 ・既知のすべての膵島関連自己抗体 [グルタミン酸脱炭酸酵素 (GAD) 抗体、膵島細胞抗体 (ICA)、insulinoma-associated antigen-2 (IA-2) 抗体、亜鉛輸送担体8 (ZnT8) 抗体、インスリン自己抗体 (IAA)] を診断基準に組み入れた。 ・海外におけるLADA [latent autoimmune diabetes in adults : 緩徐発症成人自己免疫性糖尿病、若年ではLADY (latent autoimmune diabetes in youth)] との関係性を考慮した。
特発性細菌性腹膜炎	<ul style="list-style-type: none"> ・『米国肝臓病学会ガイドライン』『欧州肝臓学会ガイドライン』『日本肝臓学会の肝硬変診療ガイドライン2020』に基づいてレビューを行った。 ・腹水の多核白血球が250/mm³以上あり特発性細菌性腹膜炎 (SBP) が疑われる患者で、Cr :1 mg/dL、BUN:30 mg/dL、総ビリルビン: 5 mg/dL——のいずれかを満たす場合、米国肝臓病学会ガイドラインではアルブミン投与を推奨している。欧州のガイドラインでは、全てのSBP患者にアルブミン製剤使用を推奨しており、日本のガイドラインでも上記基準への強い言及は無い。2022年のメタ分析では、30日死亡率と腎障害のリスクが有意に低いことが示されている (Batool S, et al. Cureus. 2022 Dec 30;14(12):e33124.)。 ・SBPの治療として、シプロフロキサシンの経静脈的投与7日間もしくは経静脈2日間および経口投与5日間はセフトキシムと同様の効果があったという研究 (Terg R, et al. J Hepatol. 2000 Oct;33(4):564-9.) や、セフトキシム、セフトリアキソン、シプロフロキサシンの効果は同等であったという研究 (Yim HJ, et al. Am J Gastroenterol. 2023 Apr 1;118(4):654-663.) が報告されている。

『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。
約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。
ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。 イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

